

NAHA Airport

japan' s southern gateway to the skies



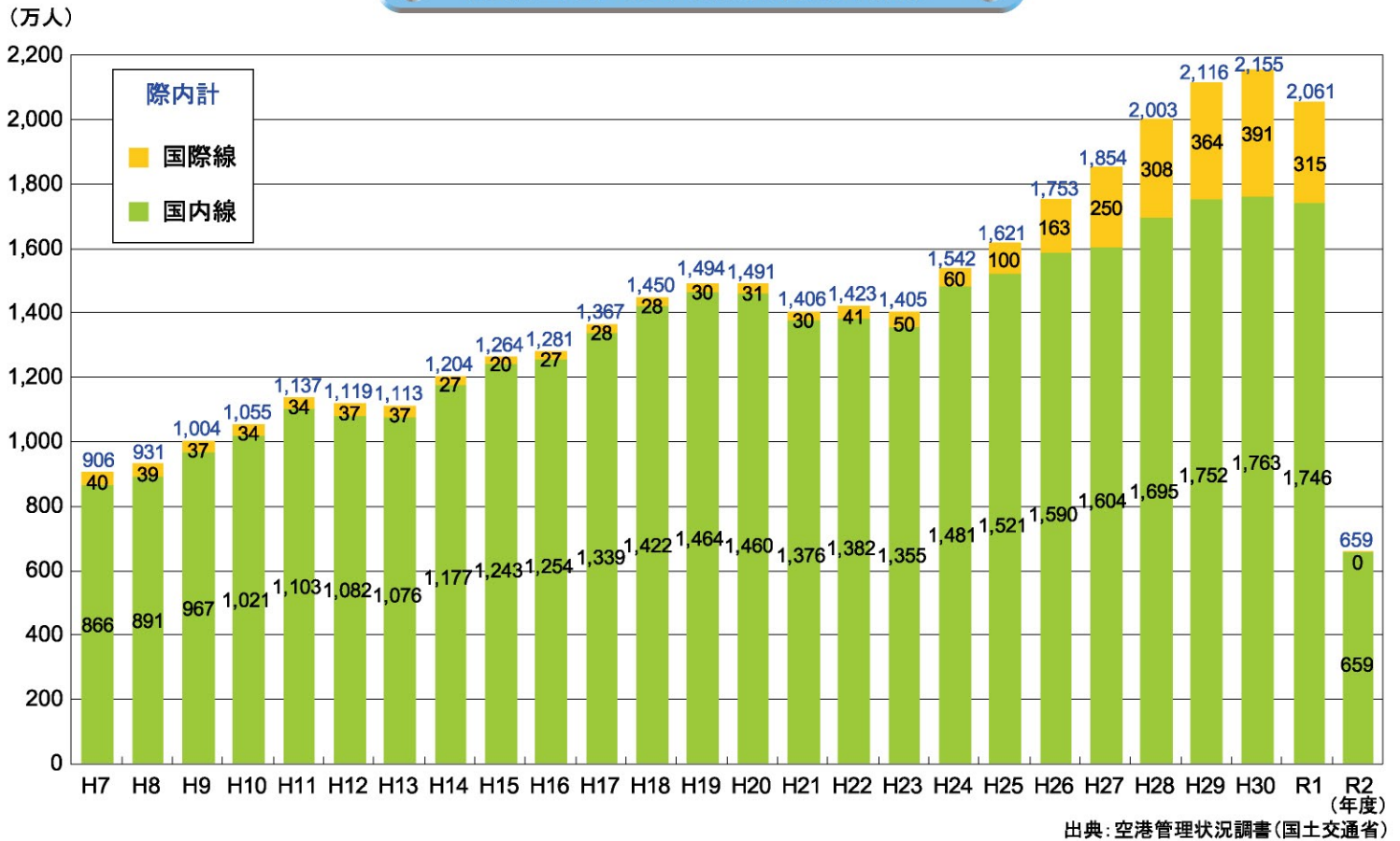
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

那覇港湾・空港整備事務所（令和2年10月15日撮影）

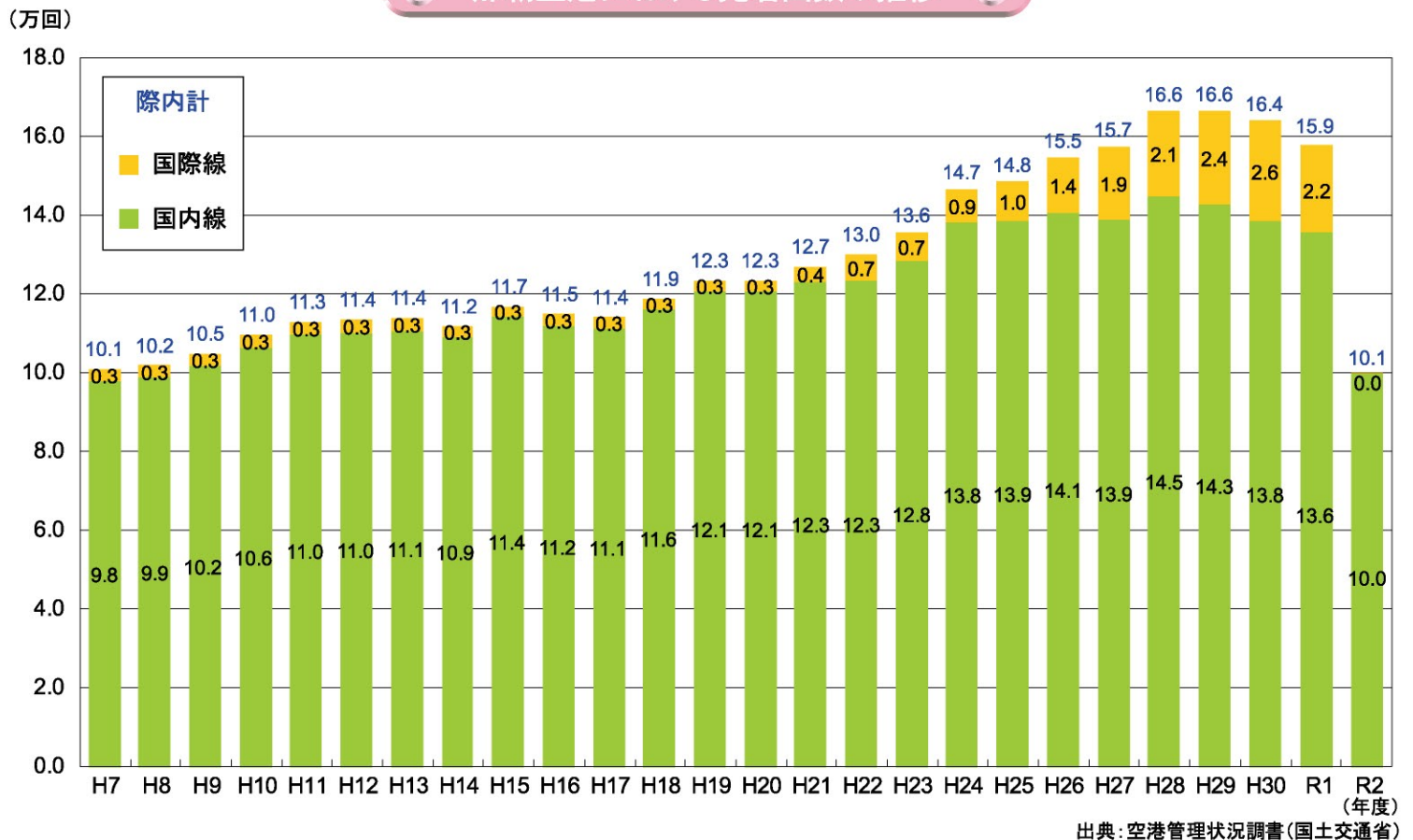
〒900-0001 那覇市港町2丁目6の11 ☎098-867-3710 <http://www.dc.ogb.go.jp/nahakou>

那覇空港の状況

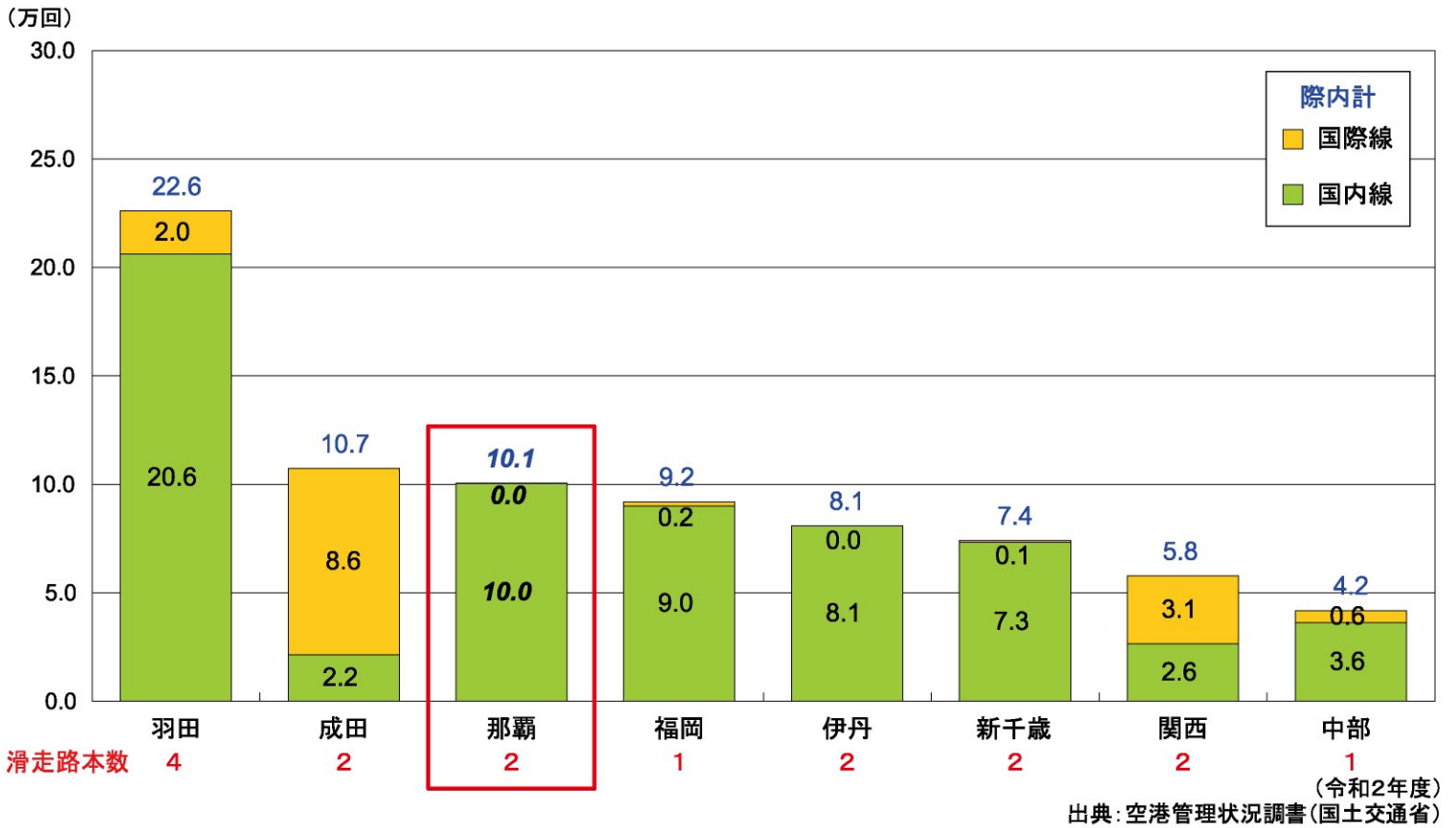
那覇空港における乗降客数の推移



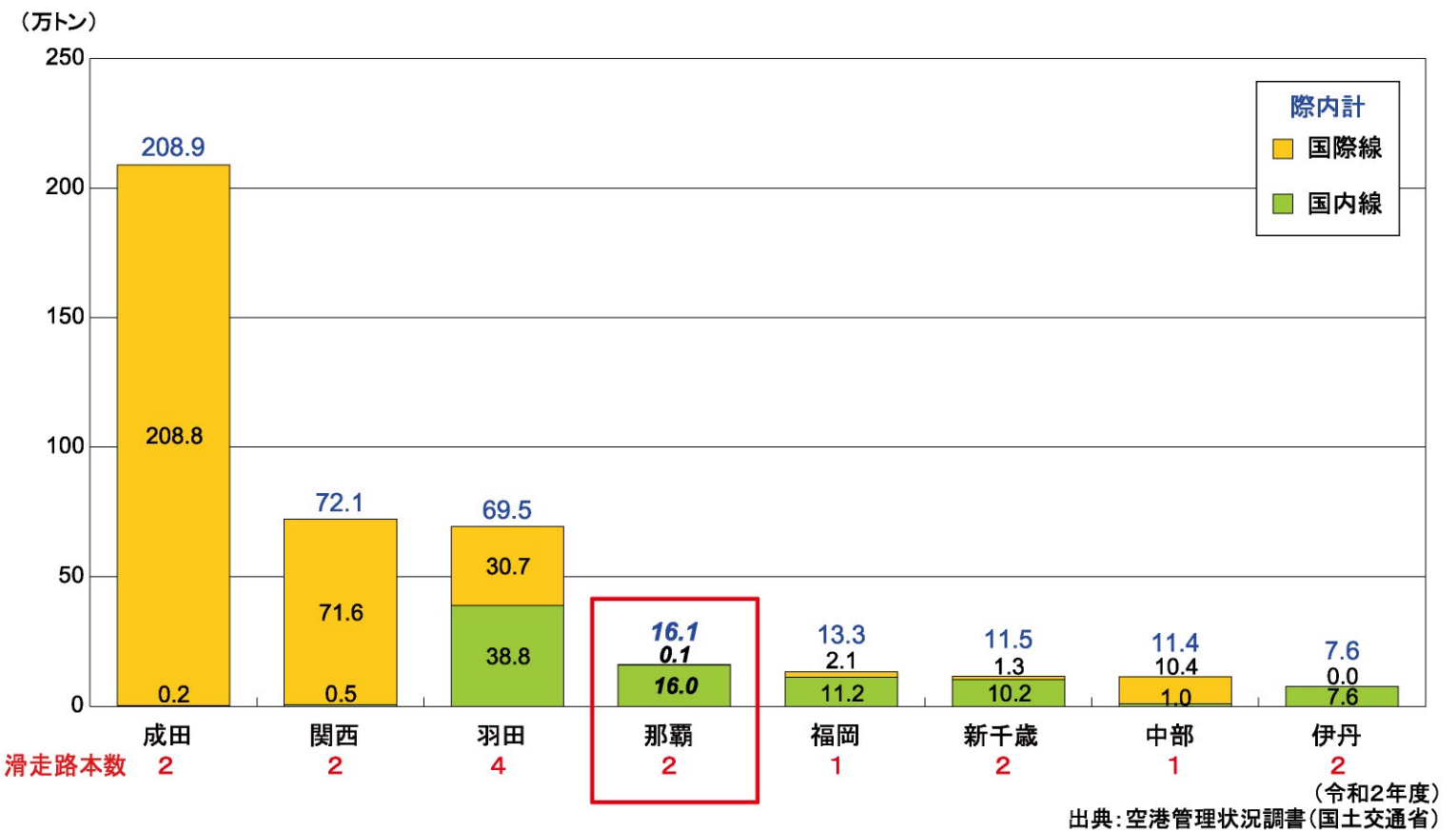
那覇空港における発着回数の推移



国内主要空港の発着回数



国内主要空港の貨物取扱量



那 覇 空 港



2,700m × 60m

1,310m

瀬長島

大嶺崎

中浅瀬

儀間ノ瀬

ランナップエリア

消防車庫施設

JTA格納庫

海上保安庁

県警施設

台風避難用

エプロン

B-TWY

B-TWY

B-TWY

W5-TWY

W4-TWY

W3-TWY

W2

W1-TWY

E7-TWY

E6-TWY

E5-TWY

E4-TWY

E3

E2-TWY

E1-TWY

A9-TWY

A8-TWY

A7-TWY

A6-TWY

A5-TWY

A4-TWY

A3-TWY

A2-TWY

A1-TWY

N8-TWY

N2-TWY

N1-TWY

大阪航空局
那覇空港事務所

旅客ターミナルビル

国道332号

県道231号線

豊見城市

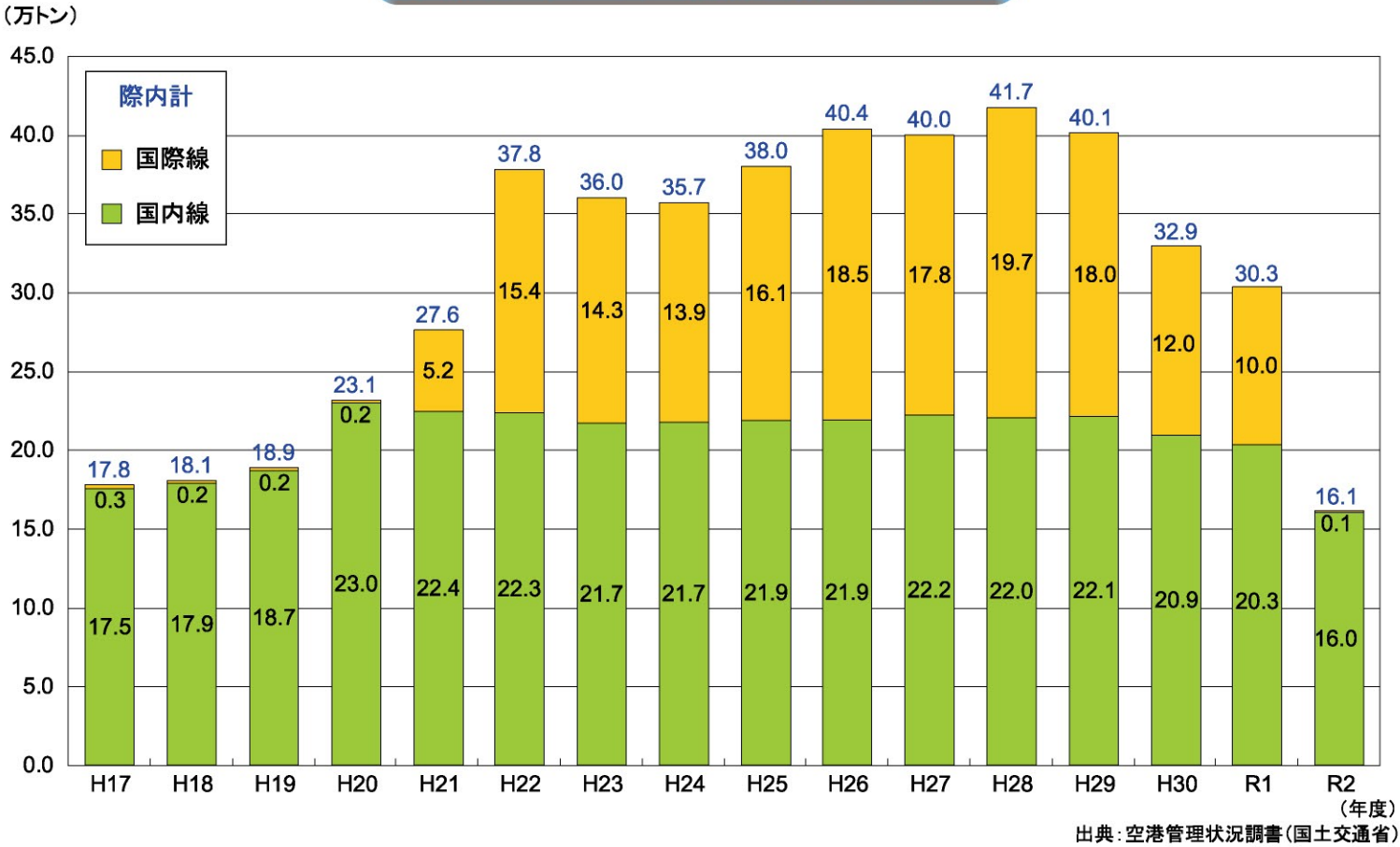
那覇市

那覇空港現況(令和3年11月03日)

那覇空港の沿革

昭和 6 年：	旧日本海軍により飛行場の建設が計画される。	昭和 62 年：	1月、第2国内線ビル～本土線間の屋根付き歩道完成。
昭和 7 年：	旧日本海軍飛行場建設に着手。		2月、第2国内線ターミナルビル及び道路駐車場完成。
昭和 8 年：	「海軍小禄飛行場」の完成。2本のくの字型滑走路 (L=750m)。		本土線工ブロン大型用2バス完成。
昭和 11 年：	日本航空輸送(株)(日本航空の前身)がフォッカーF7/3M 型機で台湾航空路(福岡～那覇～台湾)開設。	昭和 63 年：	3月、本土線駐車場拡張工事完成。
	逓信省航空局の管理「那覇飛行場」となる。		4月、E-3高速脱出誘導路供用開始。
昭和 17 年：	海軍輸送部の管理「海軍小禄飛行場」となる。	平成 2 年：	12月、E-6高速脱出誘導路供用開始。
昭和 20 年：	米国空軍那覇飛行隊の管理「那覇飛行場」となる。	平成 3 年：	3月、滑走路高上げ (36側) 工事完成。
昭和 22 年：	パン・アメリカン航空による乗り入れ開始。	平成 4 年：	3月、滑走路高上げ (18側) 工事完成。
	(東京～那覇～香港～マニラ)		10月、A-5～7誘導路拡幅工事完了。
昭和 27 年：	2月15日、那覇飛行場の滑走路等軍用施設及び民間空 港区域整備工事に着工。このため、那覇飛行場への民 間機の乗り入れは昭和29年11月14日まで禁止され、 嘉手納飛行場が代替空港となる。	平成 5 年：	3月、A-1～4誘導路拡幅工事完了。
			10月、E-4誘導路拡幅高上げ工事完了。
昭和 29 年：	日琉航空開設で日本航空がDC-6Bで国際線として定期 便を就航させる。(東京～那覇)。	平成 6 年：	新ターミナルビル地区の用地造成工事に着手。
昭和 31 年：	沖縄旅行社がCAT航空会社とチャーター契約による先 島定期航空路線を開設 (那覇～宮古～石垣)。	平成 7 年：	10月、エンジンランナップエプロン工事完成。
	那覇空港ターミナル(株)設立。	平成 8 年：	11月、エンジンランナップエプロン供用開始。
昭和 33 年：	琉球航空運輸株式会社設立。先島定期航空路線を受け 継ぐ。	平成 9 年：	4月、沖側、エプロン一部供用開始。
昭和 34 年：	旅客ターミナル完成旧国際線ビル、現在の第2ターミナ ルの位置。	平成 10 年：	6月、高架道路工事に着手。
昭和 35 年：	ノースウエスト航空がDC-8を就航させる。	平成 11 年：	4月、沖側、エプロン全面供用開始。
	これにより大型ジェット化が進む。	平成 12 年：	1月、「那覇空港国内線旅客ターミナルビル」建設に着手。
昭和 36 年：	那覇空港ターミナル(株)が琉球航空運輸を吸収合併し、 那覇空港ターミナル琉球航空部として先島運輸を継続。	平成 13 年：	2月、E-1誘導路供用開始。
昭和 39 年：	エア・アメリカ社が先島航空路に就航。	平成 14 年：	5月、「那覇空港国内線旅客ターミナルビル」供用開始。
	那覇空港ターミナル(株)琉球航空部、先島線運航中止。		4月、W-2高速脱出誘導路供用開始。
昭和 42 年：	南西航空(株)が設立され、CV240、H-18により、那覇 ～宮古、那覇～石垣、那覇～久米島、那覇～南大東、石 垣～宮古、石垣～与那国の6路線の定期航空運送事業 を開始。	平成 15 年：	3月、新ターミナル地区屋根付歩道完成。
			旧第2ターミナルビル撤去完了。
昭和 43 年：	南西航空YS-11を就航させる。		滑走路改良 (36側) 300m工事完了。
昭和 45 年：	現本土線ビル位置の埋立工事完了。	平成 16 年：	12月、主要地域拠点空港 (福岡・新千歳・那覇) につ いて答申を受ける。
昭和 46 年：	第12回日米安全保障会議により自衛隊の配備が決定。	平成 17 年：	8月、都市モノレール「ゆいレール」開業。
昭和 47 年：	5月15日、本土復帰。運輸省所管の第二種空港「那覇 空港」として運用開始、滑走路2,700mとなる (150m 延長)		3月、滑走路高上げ (18側) 1250m工事完了。
昭和 48 年：	日本航空が東京～那覇線にボーイング747SRを就航さ せる。		スカイマークエアラインズ(株)が羽田～那覇深夜定期 便就航 (夏季限定)。
昭和 50 年：	4月、本土線ターミナルビル完成。	平成 18 年：	3月、滑走路高上げ (36側) 1450m工事完了。
昭和 52 年：	12月、滑走路2,550m高上げ工事完了。	平成 19 年：	3月、旧第1ターミナルビル撤去完了。
昭和 53 年：	車輻交通方式の変更 (右側通行→左側通行)。		8月、41スポットにてチャイナエアライン機・炎上事故 発生、人員死傷なし。
昭和 57 年：	滑走路延長工事 2,700m→3,000mの現地着手。	平成 20 年：	10月、ターミナル地域整備基本計画に基づく工事に着手。
昭和 59 年：	新国際線ターミナル地区の工事着手。		新貨物ターミナルビル工事着工。
昭和 61 年：	3月13日、滑走路3,000mの供用開始。	平成 21 年：	10月、貨物ターミナル供用開始。
	5月、新2国内線ターミナル地区の工事着手。	平成 22 年：	10月、LCC専用ターミナル供用開始。
	6月、新国際線ターミナルビル及び道路駐車場完成。	平成 23 年：	1月、那覇空港滑走路増設事業着工。
		平成 24 年：	2月、那覇空港新国際線旅客ターミナルビル併用開始。
		平成 25 年：	7月、立体連絡通路供用開始。
		平成 26 年：	10月、国際線増設コンコース供用開始。
		平成 27 年：	1月、那覇空港際内連結ビル着工。
		平成 28 年：	2月、国内線旅客ターミナルビル増築(JAL側) 供用開始。
		平成 29 年：	1月、航空機整備 (MRO) 事業開始。
		平成 30 年：	3月、那覇空港際内連結ターミナル供用開始。
		平成 31 年：	1月15日、新管制塔供用開始。
		令和 2 年：	3月26日、第2滑走路供用開始 (B滑走路)。
			7月8日、A滑走路北側取付誘導路E-3、W-2供用開始。
			10月8日、A滑走路南側取付誘導路E-4C、W-3C供用 開始。

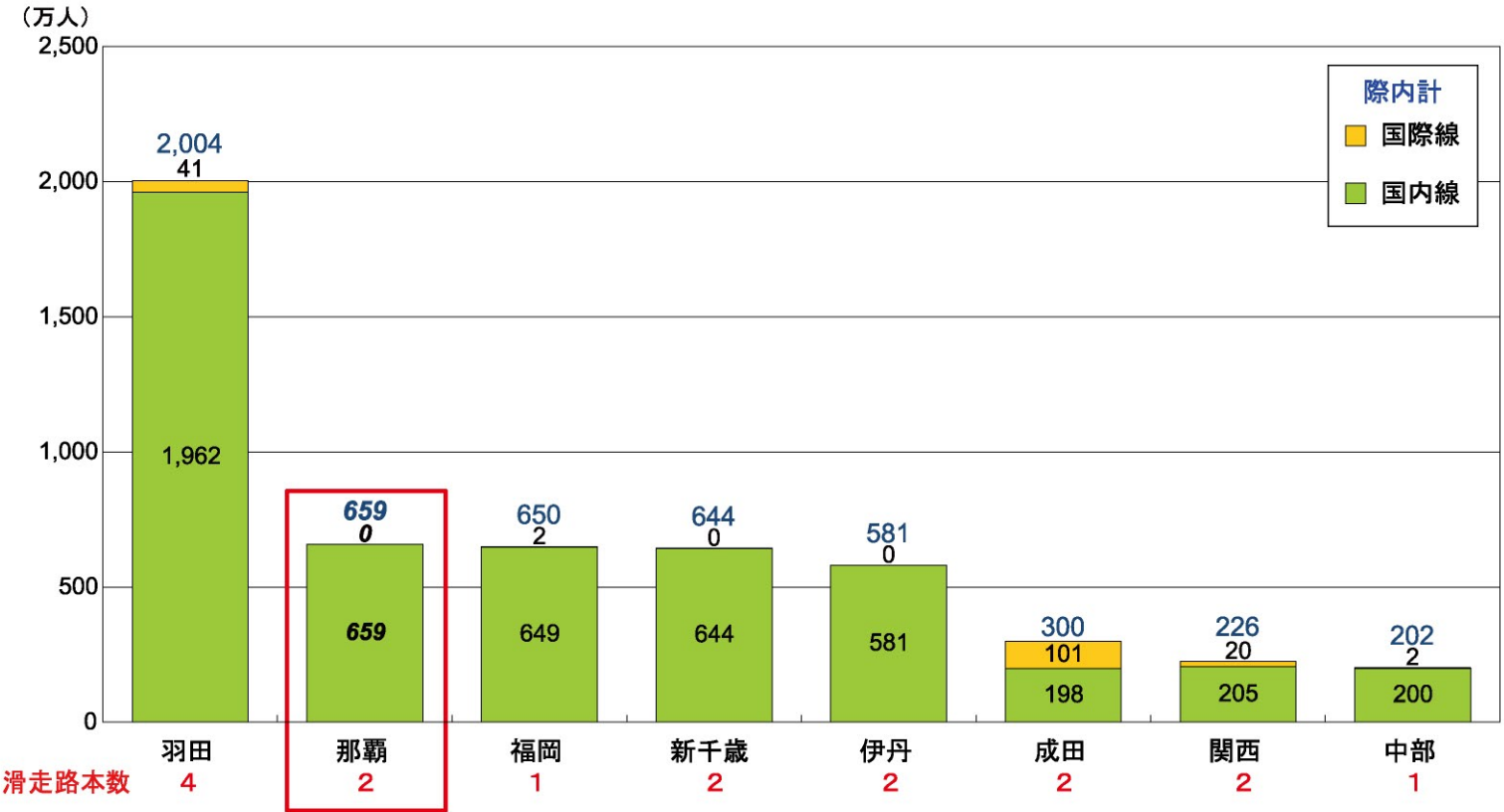
那覇空港における貨物取扱量の推移



国内主要空港の状況

令和 2 年度

国内主要空港の乗降客数

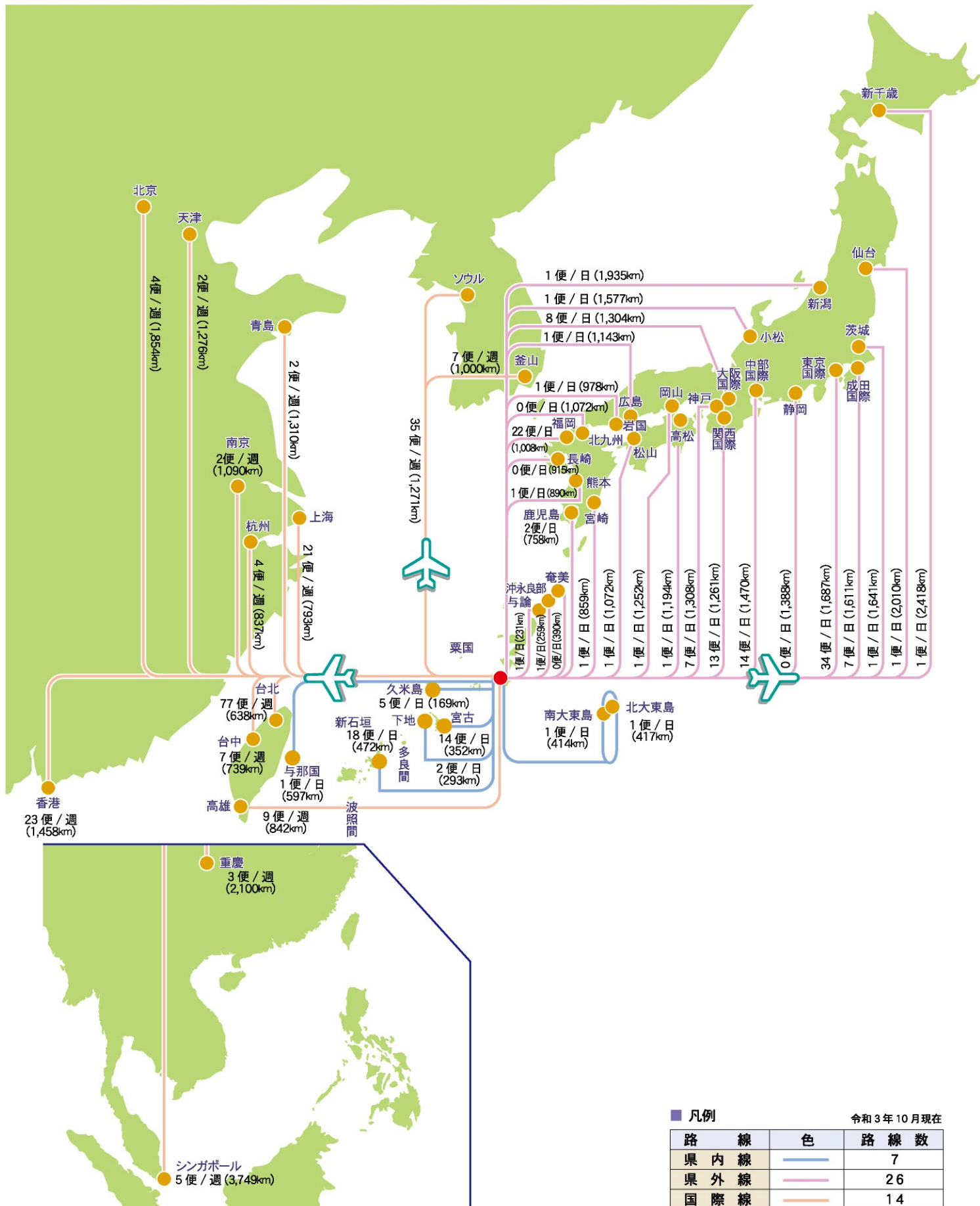


路線網と便数

※注：離陸便数、（ ）内は路線距離

・「那覇空港国内線旅客ターミナルビル / フライト情報」(<http://www.naha-airport.co.jp/flight/>) より

・「那覇空港国際線旅客ターミナルビル / フライトスケジュール」(<http://www.naha-airport.co.jp/terminal/international/>) より



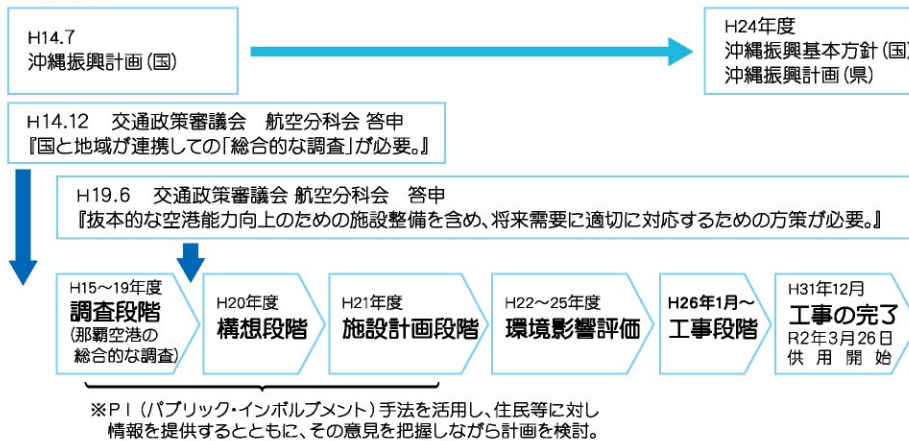
施工計画の概要について

那覇空港は、沖縄の玄関口として国内外各地を結び拠点空港であるとともに、県内離島と沖縄本島を結びハブ空港として重要な役割を果たしており、沖縄県のリーディング産業である観光・リゾート産業のみならず、生活物資の輸送や県産農水産物の出荷等を通じて県民生活や経済活動を支える重要な社会基盤であります。

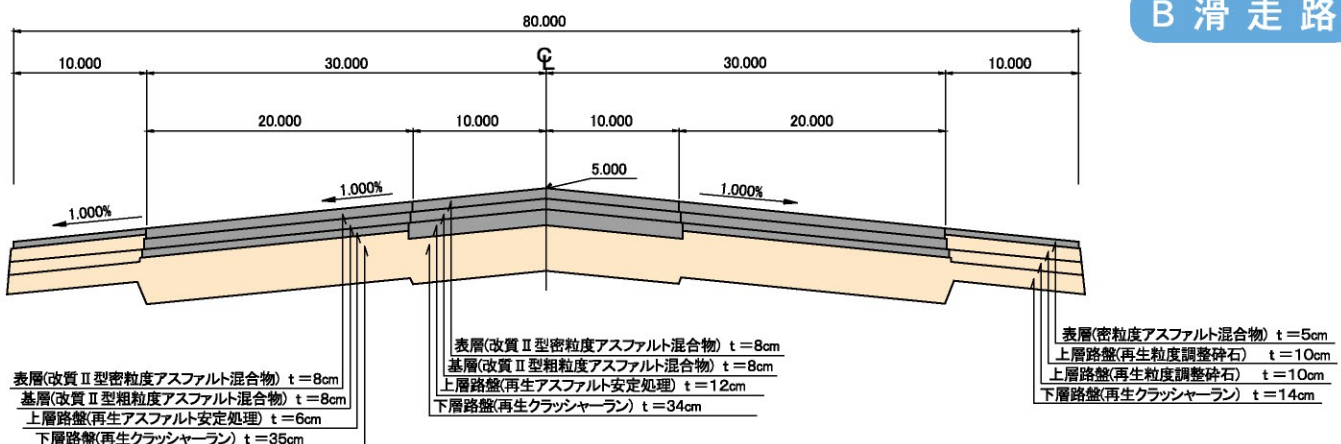
那覇空港は、滑走路 1 本の空港としては国内で 2 番目に利用度が高い空港であります。国内の主要空港と比較すると、滑走路 1 本であるものの旅客数は 5 位、貨物取扱量は 4 位（平成 23 年度）であり、観光シーズンのピーク時を中心に増便がなされていますが、希望する便の予約が取れないなどの状況が生じています。

このため、那覇空港滑走路増設事業は、那覇空港の将来需要に適切に対応するとともに、沖縄県の持続的振興発展に寄与するため、また、将来にわたり国内外航空ネットワークにおける拠点性を発揮しうよう、施設の規模や配置、環境影響等について検討を重ね、平成 26 年 1 月に工事着手しました。事業内容は、現滑走路（A 滑走路）の沖合に飛行場用地を造成し、滑走路等を新設するもので、令和 2 年 3 月に第 2 滑走路（B 滑走路）の供用を開始しました。

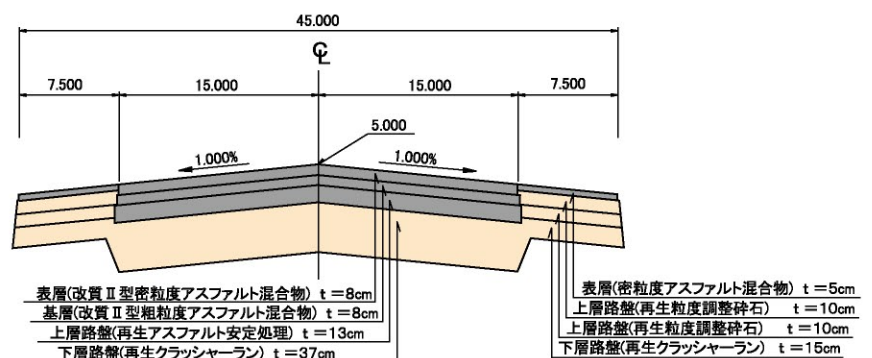
○これまでの経緯



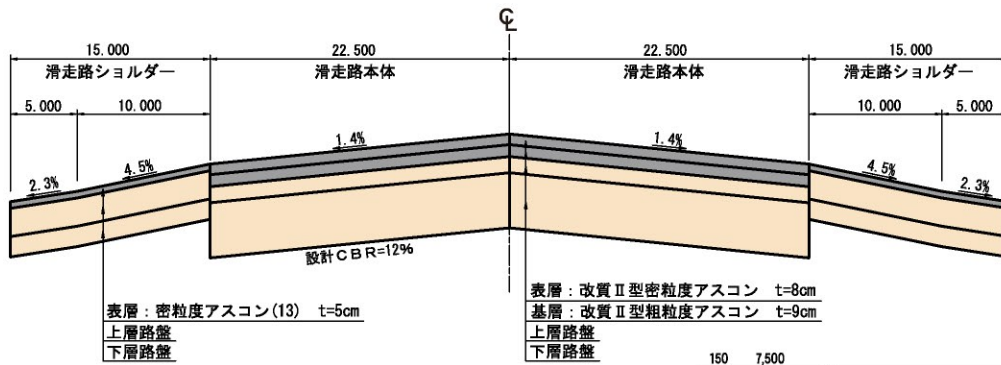
基本施設標準断面図(B 滑走路)



平行誘導路 (C-TWY)

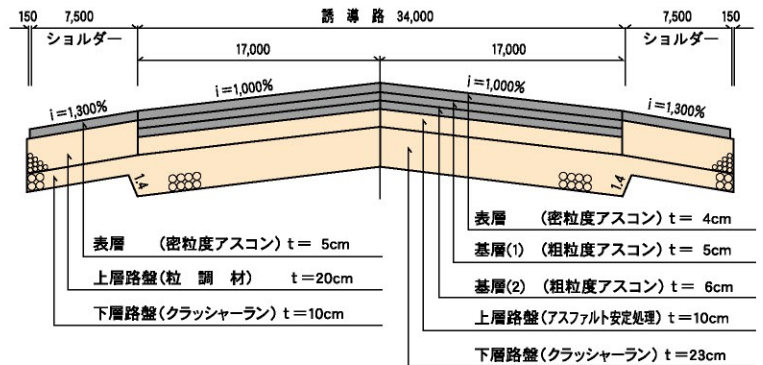


基本施設標準断面図(A滑走路)

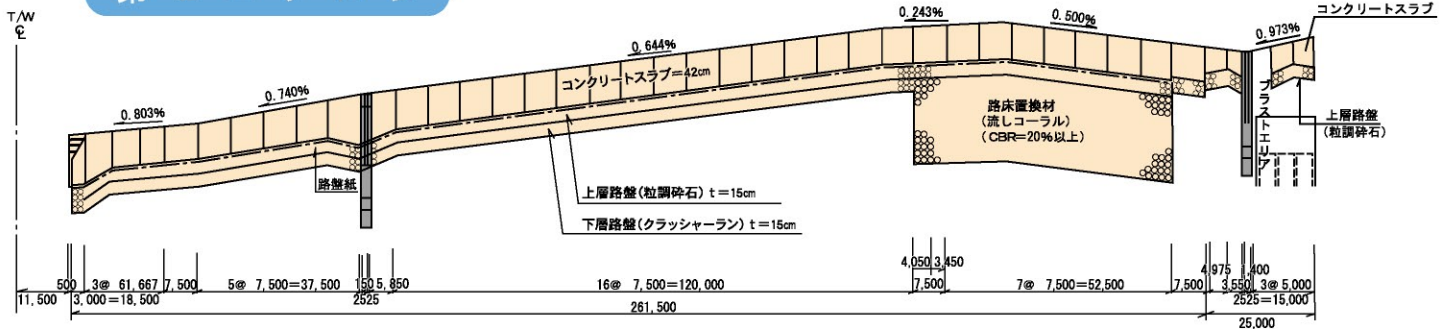


A 滑 走 路

誘 導 路
(E-2)



第 2 エ プ ロ ン



沖縄の空港概況

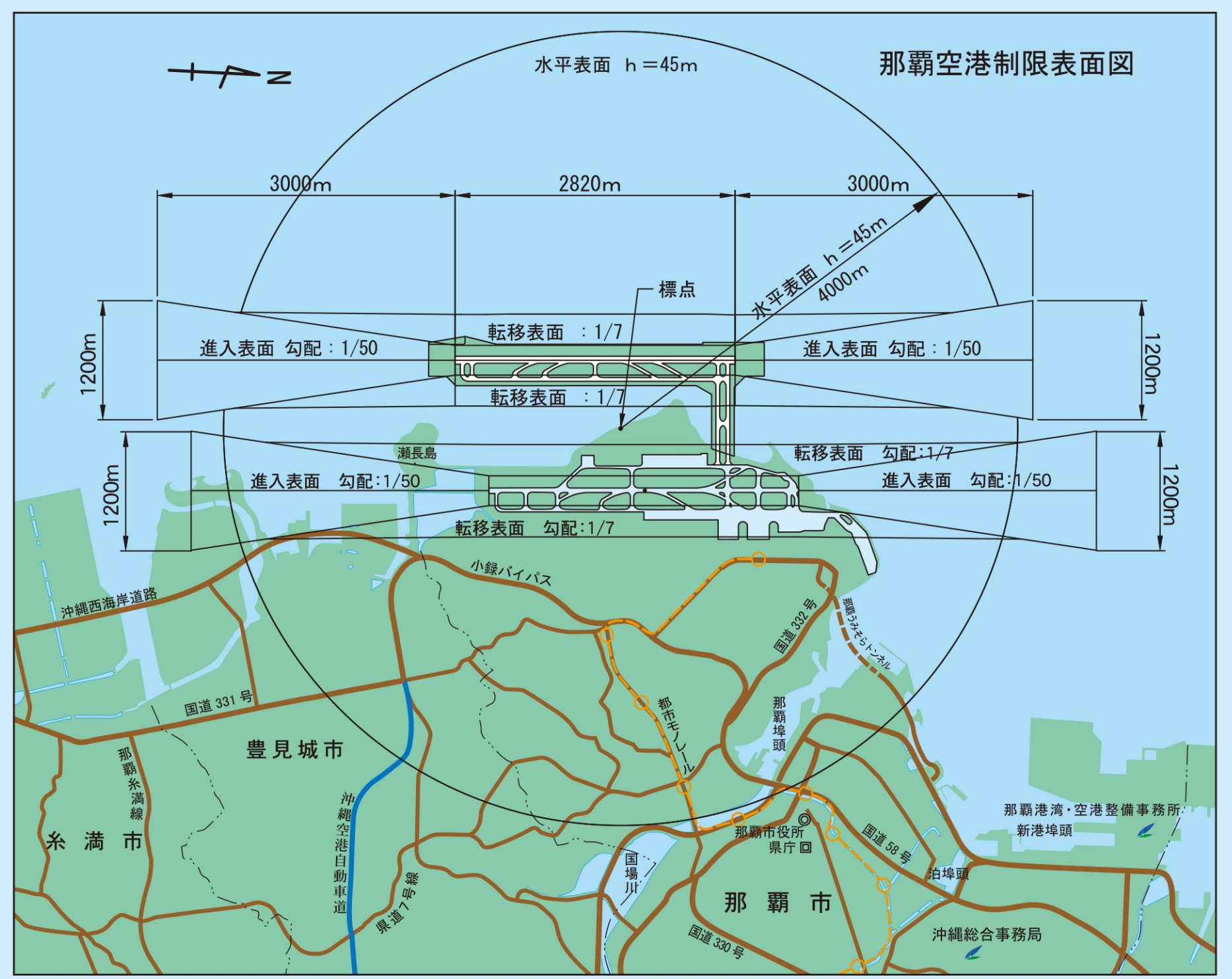
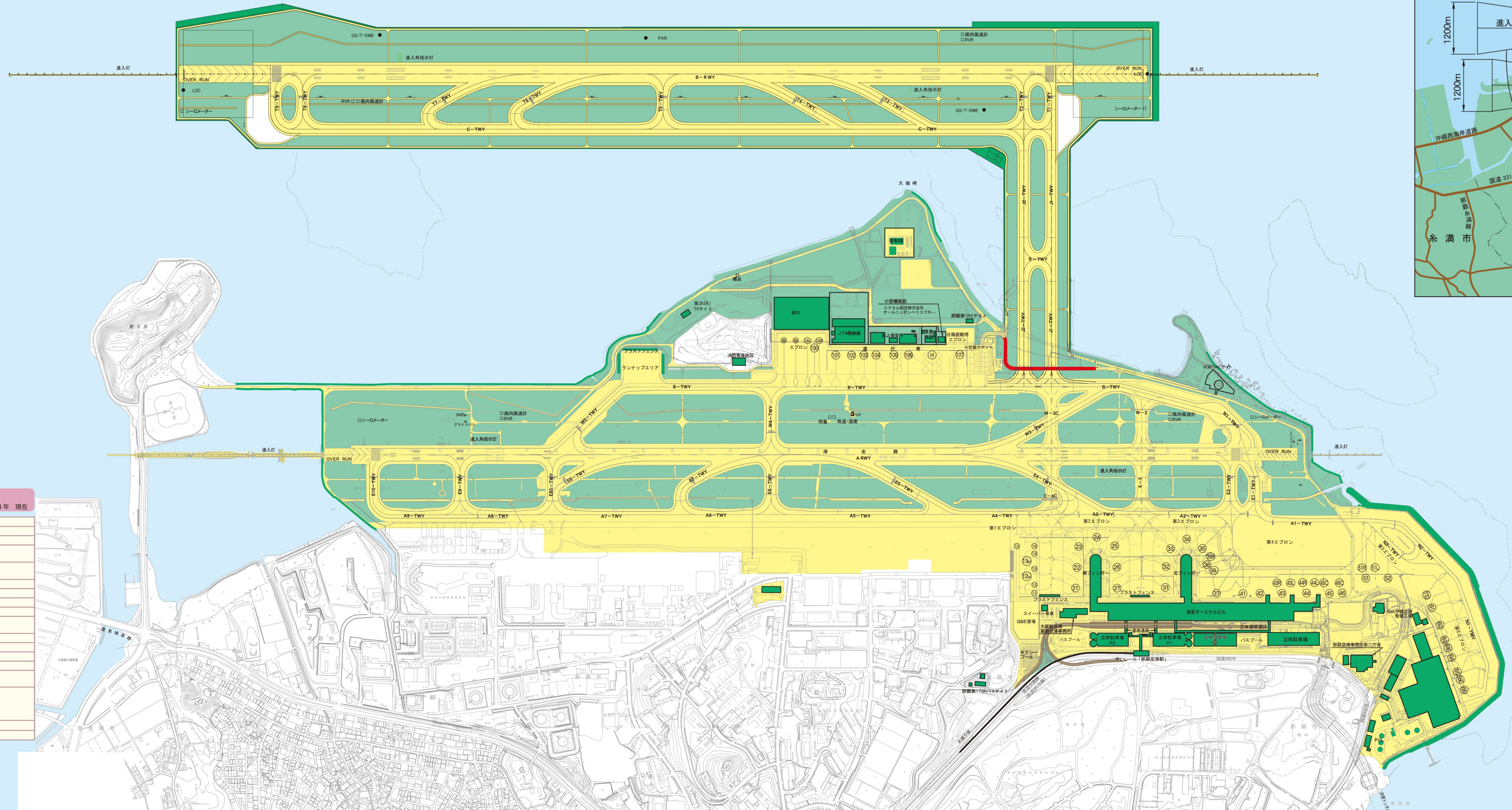
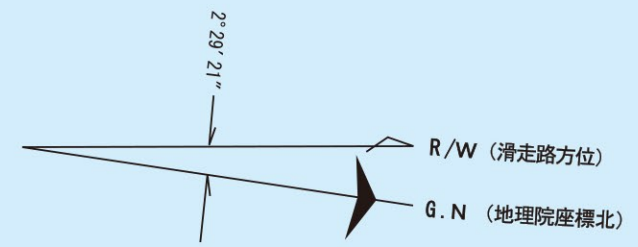
令和 2 年 3 月現在

種 別	空港名	設置 管理者	滑 走 路		整 備 計 画 等
			長(m)×幅(m)	供用開始	
国管理空港	那 覇	国土交通大臣	3,000×45	昭和61. 3.13	
			2,700×60	令和 2.3.26	
地方管理空港	新石垣	沖縄県知事	2,000×45	平成25. 3. 7	エプロンの拡張整備(令和 2.6.18 供用開始予定)
	宮 古	沖縄県知事	2,000×45	昭和58. 7. 1	エプロンの拡張整備(令和 2.4.23 供用開始予定)
	久米島	沖縄県知事	2,000×45	平成 9. 7.18	
	与那国	沖縄県知事	2,000×45	平成19. 3.15	
	南大東	沖縄県知事	1,500×45	平成 9. 7.20	
	北大東	沖縄県知事	1,500×45	平成 9.10. 9	
	多良間	沖縄県知事	1,500×45	平成15.10.10	
	伊江島	沖縄県知事	1,500×45	昭和50. 7.20	(昭和52.2.5 定期便運航休止)
	粟 国	沖縄県知事	800×25	昭和53. 7. 6	(平成 30.3.31 定期便運航休止)
	慶良間	沖縄県知事	800×25	平成 6.11.10	(平成18.4.1 定期便運航休止)
	波照間	沖縄県知事	800×25	昭和51. 5.18	(平成19.12.1 定期便運航休止)
	下地島	沖縄県知事	3,000×60	昭和54. 7. 5	パイロット訓練空港として整備。平成 31.3.30 民間定期便就航

沖縄県には、国土交通大臣が設置・管理する那覇空港(国管理空港)と、沖縄県知事が設置・管理する新石垣空港、宮古空港等(地方管理空港)の計13空港が供用されている。

那覇空港平面図

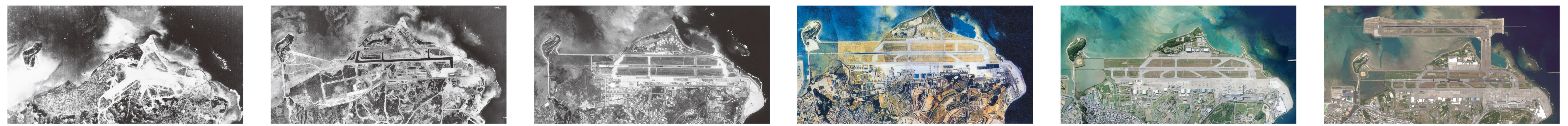
1 : 7,500



空港施設概要	
所在地	沖縄県那覇市、豊見城市
敷地面積	4,904.918㎡
空港の位置	北緯26°11'36" 東経127°38'23" 標高3.3m
基本施設	着陸帯 A 長さ 3,120m 幅300m
	B 長さ 2,820m 幅300m
	滑走路 A 長さ 3,000m 幅45m
	B 長さ 2,700m 幅60m
航空灯火	誘導路 長さ 13,340m 幅23~44.9m
	エプロン 面積 493,353㎡
航空援助施設	進入灯、進入角指示灯、外1式
	3,394 × 3基 3,999 × 2基
消火救難設備	ILS(計着誘導装置) 3式
	VOR/TAC(空港方位、距離、測定装置) 1式
駐車場	GCA ASR(空港監視レーダー) 2式
	PAR(精密進入レーダー) 2式
旅客ターミナルビル	管制用対空通信施設(VHF、UHF) 計43波
	ATIS(空港情報放送装置) VHF、UHF 計2波
貨物ターミナルビル	大型化学消防車 2台、高速化学消防車 1台
	大型医療作業車 1台、給水車 1台
	立体駐車場 P1 621台
	立体駐車場 P2 625台
	立体駐車場 P3 1,225台
	計 2,472台
	旅客ターミナルビル 162,216.33㎡
	貨物ターミナルビル 44,275㎡

凡 例	
	高架道路
	空港施設
	アンダーパス
	既設建物等
	計画建物等
	芝地等

空港の変遷



昭和11年頃

昭和20年頃

昭和48年2月

昭和62年4月

平成22年 2 月

令和 3 年11月